

Gion Festival Takayama Float Reconstruction

Project 3:The Design of Costumes for Ondo-tori and Kuruma-kata

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 滝口, 洋子, 吉田, 雅子, 日下部, 雅生, 川嶋, 渉, Takiguchi, Yoko, Yoshida, Masako, Kusakabe, Masao, Kawashima, Wataru メールアドレス: 所属:
URL	https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/299

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



祇園祭の鷹山の復興プロジェクト 3

—音頭取りと車方の衣裳のデザイン

Gion Festival Takayama Float Reconstruction Project 3:

The Design of Costumes for Ondo-tori and Kuruma-kata

Yoko Takiguchi 滝口 洋子

Masako Yoshida 吉田 雅子

Masao Kusakabe 日下部雅生

Wataru Kawashima 川嶋 渉

江戸時代に損壊した祇園祭の鷹山を復興させるために、京都市立芸術大学は鷹山の復興計画に参加し、数年をかけて鷹山の祭礼衣裳、裾幕、小物のデザインを教員と学生が制作している。2019年は本プロジェクトの3年目にあたり、音頭取りと車方の衣裳、及び粽（ちまき）のデザインを行った。音頭取りは山鉦の前面に立ち、扇子を持って山鉦を曳く人々に巡行に関する合図を出す。辻回しの時にはかけ声を掛けて雰囲気盛り上げる、最も華やかな役割である。車方は山鉦の方向転換や舵取りを行ない、山鉦の巡行を司る。なお、この授業では昨年度に囃子方の衣裳などをデザインしたが、本年度は授業と平行しながら、昨年度デザインを起こした衣裳の実物モデルの御披露目も行った。

本年度の授業に参加したのは学部の3年生と4年生の計22名で、4班に分かれて作業を行った。授業では祭礼や衣裳などの歴史的検証をまず行い、それに基づいてデザインを起こした。歴史的検証の部分は吉田雅子が主体となり、デザイン制作の部分は滝口洋子、日下部雅生、川嶋渉が主体となって指導した。授業の主要構成要素は以下である。

- ・祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査
- ・デザイン条件のヒヤリングと、祇園祭・鷹山・染織技法に関する見学
- ・昨年度デザインした実物モデルの御披露目
- ・ラフ・デザインの制作と鷹山へのラフ・プレゼンテーション
- ・デザインの修正と展開
- ・宵山・巡行・還幸祭の見学
- ・鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山によるデザインの選定

(1) 祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査

4月18日、25日の授業において、班ごとにテーマを設定して祇園祭・鷹山・衣裳等に関して調べ物を行った。各班の調査の主題は以下である。音頭取りの衣裳と扇子（1班）、車方の衣裳（2班）、祇園祭の歴史（3班）、鷹山の歴史（4班）。5月16日に調査した内容を各班がプレゼンテーションし、それまで班ごとに調べていた内容を全員で共有した。

(2) デザイン条件のヒヤリングと、祇園祭・鷹山・染織技法に関する見学

5月9日に鷹山保存会の区域内にあるちおん舎において、鷹山保存会の方々から本年度のデザイン条件に関して説明を受けた。本年度は音頭取りの衣裳、車方の衣裳に加え、鷹山の粽の包み紙もデザインしてほしいとの事で、その条件として以下があげられた。

(a) 音頭取りの衣裳

- ・約10着を祭礼で使用する
- ・デザインと色数は自由で、鷹山らしい、音頭取りにふさわしいデザインを考えてほしい
- ・帯は囃子方のものを使うので、デザインしなくて良い

(b) 車方の衣裳

- ・約20着を祭礼で使用する（予備も含めてこの数量）
- ・襟に鷹山のロゴ、鷹山の紋、車の文様を入れる（ロゴと紋は鷹山が提示）
- ・色数は自由だが、油がつくため地色は濃色が好ましい
- ・帯と帽子は不要

(c) 粽の包み紙

- ・鷹山のロゴを中央に入れる（このロゴは各自が考えて

よい)

- ・八坂神社の御神紋(巴紋と窠紋)を横並びに入れる
- ・「蘇民将来之子孫也」の語も入れる
- ・他のモチーフは鷹山を象徴するものを考える
- ・包み紙を止めるシールもデザインする

以上の説明を受けた後、ちおん舎の内部を見学させていただいた。ちおん舎は鷹山保存会副理事長である西村吉右衛門氏の御住まいで、応仁の乱の後に法衣業を始め、屋号を「千切屋」とした京都を代表する旧家である。京都の商家の典型の一つを示す室内には、様々な工芸品が飾られている。

さらに、ちおん社の見学後に京都文化博物館に赴き、「函谷鉾の名宝展」を見学し、祇園祭の装飾品に関する知識を深めた。

5月30日には、音頭取りや車方の衣裳の染を担当する藤田染苑に赴き、シルクスクリーンがどのような原理でどのように染められるかといった説明を受けた(図1)。

(3) 昨年度デザインした実物モデルの御披露目

昨年度の授業では、囃子方の衣裳と帯のデザインを行った。また、佳作のデザインは手ぬぐいやTシャツに用いられることが決まった。これらのデザインの実物モデルが上がってきたため、それらを四条通りの祇園祭ギャラリー(東山区祇園町南側551)において展示し、6月15日に御披露目式を行った。新たに展示された囃子方の浴衣は木下美奈、帯は佐藤香穂里、手ぬぐいは土屋さおり、Tシャツは杉山佳代のデザインである。囃子方の衣裳と帯は本年度の唐櫃巡行や2022年度の正式巡行などに用いられる予定である。手ぬぐいは本年度の鷹山の授与品とされ、Tシャツは鷹山保存会をはじめとする様々な方々によって着用される。御披露目式には、祇園祭山鉾連合会から木村幾次郎副理事長(現理事長)、鷹山から



図1 藤田染苑の亀井泰仁氏の説明

山田純司理事長、西村健吾副理事長、囃子方の各位、鷹山保存会美術アドバイザーの森田りえ子氏(京都市立芸術大学客員教授)、京都市立芸術大学から赤松玉女学長、滝口洋子教授、吉田雅子教授、日下部雅生教授、川嶋渉教授、及び学生代表の佐藤香穂里、藤本柚香、永井美帆などが参加した。御披露目式は多数の来場者を迎え、複数の報道で取り上げられた。

(4) ラフ・デザインの制作と鷹山へのラフ・プレゼンテーション

鷹山から提示されたデザイン条件に従いながら、6月6日と20日に各自がデザインのラフスケッチをとりまとめ、6月27日に第1回目の鷹山へのプレゼンテーションを行った。各自のデザインに関して、着用する立場から鷹山保存会のみなさまがさまざまな御助言を下された。

(5) デザインの修正と展開

鷹山保存会からの御助言に基づいて、7月4日・11日・18日の授業において学生はそれぞれのデザインを修正し、さらに磨き上げていった。教員は学生にさまざまな方向から助言を与え、学生のデザインの水準が向上するように指導した。

(6) 宵山・巡行・還幸祭の見学

祇園祭の時期になったので、7月21日に後祭の宵山において教員が引率して町内の飾り物を見学し、祭囃子を聞いた。また、7月24日の午前中に後祭の山鉾の巡行を見学した。さらにこの日の22:00頃から、八坂神社において還幸祭を見学した。この神秘的な祭事によって、市内に移されていた祭神は八坂神社にもどり、祇園祭の主要な行事の幕が下りた。

(7) 鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山によるデザインの選定

祭礼の熱がまだ冷めない8月1日、鷹山保存会に正式なプレゼンテーションを行った。鷹山保存会の方々には、プレゼンテーション終了後に集まってデザインを詳細に検討され、その中から採用案を選定された。その結果、音頭取りの衣裳には堀切美希(染織専攻、3回生)の案(図2)、車方の法被には永井美帆(日本画専攻、3回生)の案(図3)が選ばれた。また、森田修斗(プロダクトデザイン専攻、3回生)の案(図4)は、車方の法被の佳作となり、このデザインは車方のTシャツに用いられることが決まった。さらに粽には、音頭取りの衣裳と同じモチーフを用いた堀切美希の案(図5)が選ばれ、粽のシールには二反田唯花(ビジュアルデザイン専攻、3回生)の案が選ばれた(デザイン決定に関しては図6)。



前面



背面

図2 音頭取りの衣裳に選ばれた堀切美希のデザイン

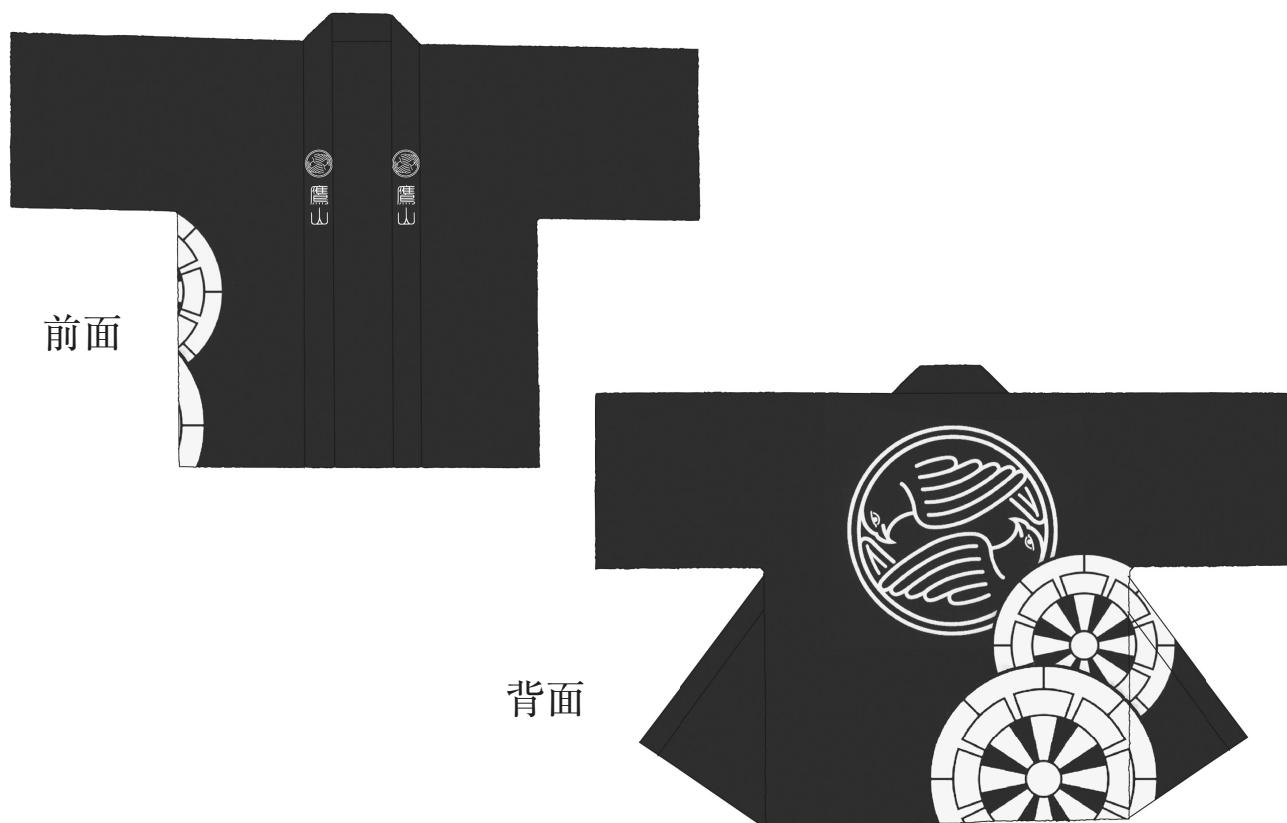


図3 車方の法被に選ばれた永井美帆のデザイン

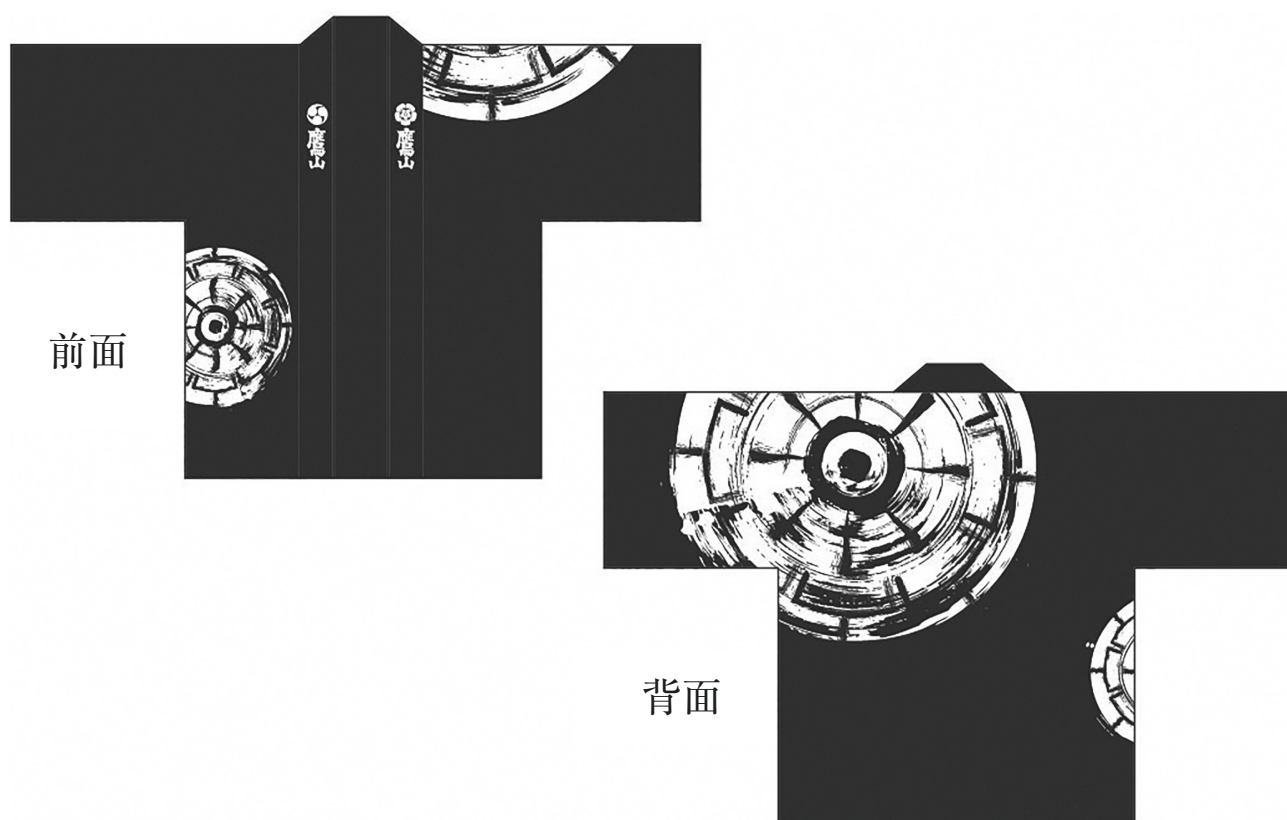


図4 Tシャツに選ばれた森田修斗のデザイン

学生は以上のプロジェクトに参加して、京都の人々を通して京都の文化と触れあい、さまざまなアイデアを出し合い、多様なデザインを展開した。なお、囃子方の衣裳などのお披露目及び本年度のプロジェクトに関する

内容は、以下のメディアで報道された。

【テレビ】計1件:KBS 京都放送局「約200年ぶりに唐櫃巡行、鷹山囃子方衣裳完成」令和元年6月15日。

【新聞】計8件:(1)朝日新聞(朝刊)「祇園祭 京都市立芸術大生が衣裳制作 りりしき鷹山囃子方」令和元年6月16日;(2)読売新聞(朝刊)「節目の年準備着々鷹山浴衣に羽表現」令和元年6月16日;(3)産経新聞(朝刊)「祇園祭休み山200年ぶり巡行 鷹山衣裳モダンに新調」令和元年6月16日;(4)毎日新聞(朝刊)「囃子方かつこよく 祇園祭鷹山衣裳京都芸大生が制作」令和元年6月16日;(5)京都新聞(朝刊)「鷹山・囃子方の衣裳新調 タカの羽描く」令和元年6月16日;(6)京都新聞(朝刊)「鷹山衣裳デザイン決定 車方・音頭取り市立芸大生提案」令和元年8月2日;(7)毎日新聞(朝刊)「書の腕前生かし大胆に 祇園祭鷹山22年復興に向けデザイン」令和元年8月3日;(8)産経新聞(朝刊)「音頭取り衣裳デザイン決定 京都市芸術大生提案 車方法被も」令和元年8月12日。

【Web 新聞】計1件:(1)烏丸経済新聞「200年ぶり祇園祭に巡行復帰の鷹山 学生デザインの衣裳お披露目」令

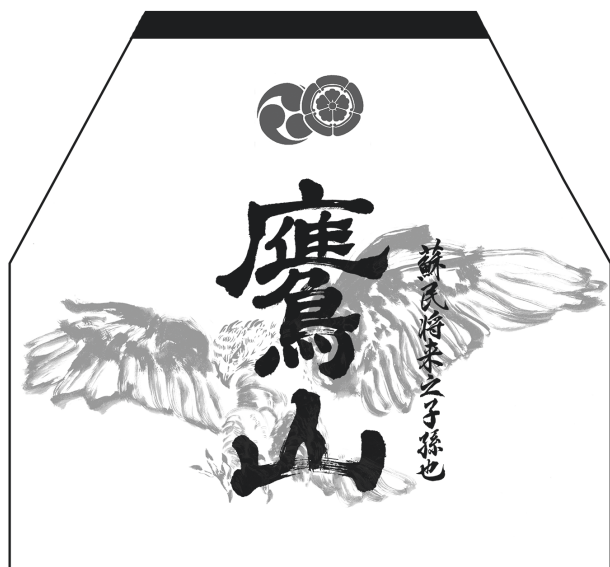


図5 棕に選ばれた堀切美希のデザイン

書の腕前生かし大胆に 祇園祭「鷹山」22年復興に向け デザイン

採用された「音頭取り」の衣裳のプレゼンをする
堀切美希さん―京都市中京区の「ちおん舎」で



京都市立芸大生・堀切さん

今年の祇園祭の後祭山鉦巡行(7月24日)で193年ぶりに唐櫃巡行で復帰した鷹山は1日、京都市中京区の京町家「ちおん舎」で、2022年の復興に向けて山の正面に立つ「音頭取り」と山を操作する「車方」の衣裳、授与品の棕のデザインを決めるプレゼンテーションをした。

【矢倉健次】

京都市立芸大でを受講する学生約20人「祇園祭の鷹山の復興が次々と登場し、それデザイン計画」の授業 ぞれ創意工夫を凝ら

「音頭取り」衣裳用に採用

し、「鷹が羽ばたく」「不死鳥のようによみがえる」などをイメージしたデザインを発表。山田純司理事長(65)ら鷹山保存会のメンバーが投票で採用する作品を決めた。

音頭取りの衣裳と棕で採用された3年生の堀切美希さん(22)―神戸市東灘区―の作品は、いずれも書道師範の腕前を生かして描いた「鷹」の文字を大胆に取り入れた。復興を願って、日本文化の良さを生かそうとデザインした」と堀切さん。来年6月に予定される実物のお披露目に向けてプロジェクトは進む。

鷹山は、吉田雅子教授(染織工芸史)が調査委員を務めていたこともあり、17年から各種衣裳や小物のデザインを同大学に依頼。唐櫃巡行で「囃子方」がまとった衣裳にも採用されている。

図6 毎日新聞(朝刊) 令和元年8月3日

和元年 6 月 17 日

現在、選定されたデザインに基づいて実物モデルが制作されている。完成した実物モデルは、四条通りの祇園祭ギャラリーにおいて2020年初夏に展示される予定である。

なお、次年度はこのテーマ演習で裾幕（山鉦の下方につける幕）をデザインする予定であり、継続して鷹山の復興支援に関わってゆく。

【謝辞】

本プロジェクトにおいて以下の方々から御助言、御協力、御厚情を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。山田純司様、西村吉右衛門様、西村健吾様、大嶋博規様、藤田丈博様、亀井泰仁様、京都市立芸術大学総務広報課 近西茂氏・桃尾亮汰氏。

【追記】

本プロジェクトは日本学術振興会平成31年度科学研究費、基盤研究（c）課題番号19K00255を受けて遂行した。